

はじめに

本レクチャーシリーズは、アジア研究センター共同研究グループ「アジアの社会遺産と地域再生手法」「アジア都市の生活圏」の成果の一部である。これらの共同研究は、アジア研究センター共同研究「東アジア4国際都市の脆弱地区の調査、ならびに環境社会再生への方法の探求」(2013-17)を継承しながら異なる視点により展開したものである。「アジアの社会遺産と地域再生手法」は「社会遺産」、「アジア都市の生活圏」は「生活圏」と異なる観点から、いずれの共同研究もアジアの地域・都市再生事例を相互比較することにより、アジア的空間計画論の構築を目的としている。

これら共同研究に共通する研究手法として、アジア各地の地域再生事例を対象としたフィールドワークがある。ところがCOVID19の感染拡大により私たちは海外に出かけることができなくなり、共同研究は方向転換を余儀なくされた。一方で、オンライン授業などで導入したオンラインミーティングは、遠方の研究者たちとの距離を縮めてくれる利点をもたらした。そこで、アジアの都市・地域をフィールドにもつ研究者・実践者によるレクチャーシリーズを企画・開催することとした。コロナ禍の2020年度後半にスタートし、コロナ禍が終息し海外フィールドワークが可能になった現在も、レクチャー及び討論が大変示唆に富んでいたことから継続している。2020年度から2025年度まで、「アジアの社会遺産と地域再生手法」を主題として8回、「アジア都市の生活圏」として4回、計12回のレクチャーを実施した。

「アジアの社会遺産と地域再生手法」の社会遺産(social heritage)は、生まれたときにおかれていた社会的環境を指す用語である。社会遺産は主として人に対して使われることが多いが、地域や都市もそれぞれ社会遺産を有する。アジアの諸都市は、近代において似たようで異なる複雑な国際的背景の中でそれぞれ発達してきた。近年、アジアの諸都市では地域再生が活発に行われており、本共同研究ではそれらの事例を「社会遺産」から見るにより、その地域の歴史的・文化的・政治的文脈から重層的に分析するものである。

一方、コロナ・パンデミックは私たちの生活、そして都市の変容を促したが、身近な生活圏に目が向けられるようになったことも大きな影響である。買い物や通勤・通学などの生活利便性だけでなく、自然豊かな遊歩道や公園、サードプレイス(居場所)など、生活を豊かにする環境が求められるようになった。「アジア都市の生活圏」では、アジアのいくつかの都市において、公共交通や自動車ではなく自転車やバイクによる移動により、欧米や韓国、日本のそれらとは異なる生活圏を構成している点に着目した。そのあり様はアジア固有の景観を形成しており、アジア都市に即した生活圏への計画論的アプローチが求められる。

レクチャーシリーズは公開で実施し、個々の記録はアジア研究センターHP及び神奈川大学リポジトリで閲覧が可能である。今回、叢書としてまとめることとなり振り返りの機会をいただいた。2つの共同研究にまたがり、それぞれ社会遺産、生活圏と着目する視点は異なるが、アジア的空間計画論の探求という目的は一致している。それぞれのレクチャーは対象とする国・地域・都市、事例の内容も実に多様である。レクチャーからの気づき、そしてそこから見えてくるアジア的空間計画論とはどのようなものか—— そのようなことを考えながら、バーチャルなフィールドワークを楽しんでいただければと思う。

謝辞:素晴らしいレクチャーをいただいた講師のみなさん、参加くださったみなさんに感謝申し上げます。また、本叢書はアジア研究センターの出版助成によるものです。アジア研究センターにも御礼申し上げます。

アジア研究センター共同研究グループ

「アジアの社会遺産と地域再生手法」

「アジア都市の生活圏」

研究代表者 山家京子